

# こどもの居場所と アドボカシー



兵庫大学 教育学部 教育学科

教授 田邊 哲雄

(保育士・社会福祉士・幼稚園教諭専修)

# 1 子どもの居場所（サードプレイス）の 確保を目指して

サード・プレイスとは（以下「サード・プレイス - Wikipedia」より引用）

コミュニティにおいて、自宅や職場とは隔離された、心地のよい第3の居場所を指す。

アメリカの社会学者、レイ・オルデンバーグは著書『ザ・グレート・グッド・プレイス』（The Great Good Place）で、市民社会、民主主義、市民参加、ある場所への特別な思いを確立するのに重要だと論じている。

## 市区町村における子育て家庭への支援の充実（1. ②関係）

- 要支援・要保護児童（※1）は約23万人、特定妊婦（※2）は約0.8万人とされる中、支援の充実が求められている。  
※1 保護者への養育支援が特に必要、保護者による監護が不適当な児童 ※2 出産前において出産後の養育支援が必要な妊婦
- 地域子ども・子育て支援事業において、訪問型支援、通所型支援、短期入所支援の種類・量・質の充実を図るとともに、親子関係の構築に向けた支援を行う。
- 市区町村において計画的整備を行い、特に、支援が必要な者に対しては市区町村が利用勧奨・措置を実施する。

### 子育て世帯訪問支援事業（訪問による生活の支援）

- 要支援児童、要保護児童及びその保護者、特定妊婦等を対象（支援を要するヤングケアラー含む）
- 訪問し、子育てに関する情報の提供、家事・養育に関する援助等を行う。  
例）調理、掃除等の家事、子どもの送迎、子育ての助言 等

### 児童育成支援拠点事業（学校や家以外の子どもの居場所支援）

- 養育環境等の課題（虐待リスクが高い、不登校等）を抱える主に学齢期の児童を対象
- 児童の居場所となる拠点を開設し、児童に生活の場を与えると同時に児童や保護者への相談等を行う  
例）居場所の提供、食事の提供、生活リズム・メンタルの調整、学習支援、関係機関との調整 等

### 親子関係形成支援事業（親子関係の構築に向けた支援）

- 要支援児童、要保護児童及びその保護者、特定妊婦等を対象
- 親子間の適切な関係性の構築を目的とし、子どもの発達の状況等に応じた支援を行う。  
例）講義・グループワーク・ロールプレイ等の手法で子どもとの関わり方等を学ぶ（ペアレントトレーニング） 等

### 子育て短期支援事業

- 保護者が子どもと共に入所・利用可能とする。子どもが自ら入所・利用を希望した場合の入所・利用を可とする。
- 専用居室・専任人員配置の推進、入所・利用日数の柔軟化（個別状況に応じた利用日数の設定を可とする）を進める。

### 一時預かり事業

- 子育て負担を軽減する目的（レスパイト利用など）での利用が可能である旨を明確化する。

子どもの第三の居場所  
サードプレイス

地域子ども・子育て  
支援事業への位置づけ

- ✓ 市区町村の計画的整備
- ✓ 子ども・子育て交付金の充当

新設

拡充

## \*オルデンバーグの定義として

「ファースト・プレイス」：その人の自宅で生活を営む場所。  
(家族、家庭など)

「セカンド・プレイス」：その人が最も長く時間を過ごす場所。  
(職場、学校、保育所・幼稚園・認定こども園など)

「サード・プレイス」：地域生活の「基礎」ともなるべきところ。  
(こども食堂、児童館、子育て支援センターなど)

どのような社会も、既に非公式の出会いの場所を備えていて、意図的に、現在の社会的ニーズに重要なそれらを追及している。

## オルデンバーグが定義する「8つの特徴」

### ①中立領域

特定の個人や団体、政治組織や宗教組織に属していない場でなければならない。また、その構成者は義務感からそこにいるのではない。彼らは、経済的、政治的、法的に縛られること無く、喜んでやってくる。

### ②平等主義

個人の社会における地位に重きをおかない。経済的・社会的地位は意味がなく、ありふれていることが許容される。サード・プレイスでは参加するために、何も必要条件や要求がない。

### ③会話が主たる活動

遊びココロや楽しい会話がサード・プレイスの活動のメインフォーカスである。会話のトーンは気軽で、ユーモア、ウィットがあり、優しい遊びココロは高く評価される。

#### ④アクセスしやすさと設備

オープンで、みなが訪れやすい環境。柔軟で親切で、集まる人のニーズにこたえるところ。

#### ⑤常連・会員

常連がいて、空間やトーンを形成する。その場所らしさを彼らがつくる。新たな訪問者を惹きつけて、新参者にも優しいところ。

#### ⑥控えめな態度・姿勢

健全である。その中には無駄遣いや派手さはなく、家庭的な感じ。偉ぶったり、排他的であってはいけない。いかなる個人、あらゆる階層の人を受け入れる。

## ⑦機嫌がよくなる

会話のトーンは、けっして緊張や憎悪を生んではいけない。その代わり、陽気でウィットに富んだ会話、気さくな冗談は歓迎される。

## ⑧第2の家

その場にいる人たちは、しばしばあったかい感情を共有する。あたかも同じ家に暮らす者同士のように。この場所に根ざしている感情を持ち、精神的に生まれ変わることを得る。

Q. 次の場所は、今のあなたにとって  
居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）  
になっていますか？

● そう思う      ● どちらかといえば  
そう思う      ● どちらかといえば  
そう思わない      ● そう思わない

### 家庭・学校では…

家庭（実家や親族の家を含む） 単位＝％ n=10,000



学校（卒業した学校を含む）



### 家庭・学校以外の場所では…

自分の部屋



職場（過去の職場を含む）



地域（現在住んでいる場所やそこにある施設など）

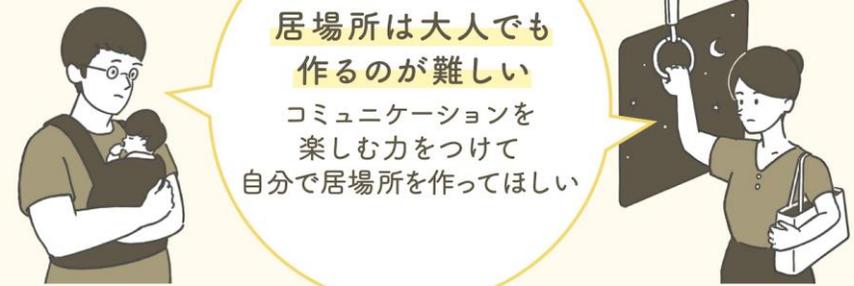


インターネット空間



Yahoo!ニュース コメントでは…

## 居場所の重要性を説く声



居場所は大人でも  
作るのが難しい  
コミュニケーションを  
楽しむ力をつけて  
自分で居場所を作ってほしい



子どもの頃も、そして大人になった今でも  
1人であることこそが自分の居場所の気がする



まず第一に学校や家庭を居場所にできるような社会に  
していくことが必要なのでは？



家・学校に居場所がなくつらかった  
子どもはどうすることもできない



私のピアノ教室を居場所だと言ってくれる子どもたちがいる  
親にも先生にも相談できないことを話してくれる

学校や地域、家庭に  
頼れる大人が複数いる

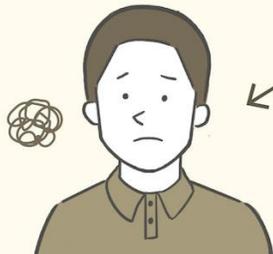


援助機関

電話相談  
メール相談  
LINE相談

広報 チラシ 掲示物

身近な大人との  
関係不和



非行



ひきこもり  
孤立無援



## 居場所を作る小さな一歩

当事者の子どもが  
できる一歩

- 1 好きなことや  
同じ趣味の人同士で  
つながってみる
- 2 他人や動物など  
「自分以外の何か」と  
触れ合う機会を作る
- 3 自分の趣味や生活圏から  
行動範囲を少し広げてみる

周囲の大人が  
できる一歩

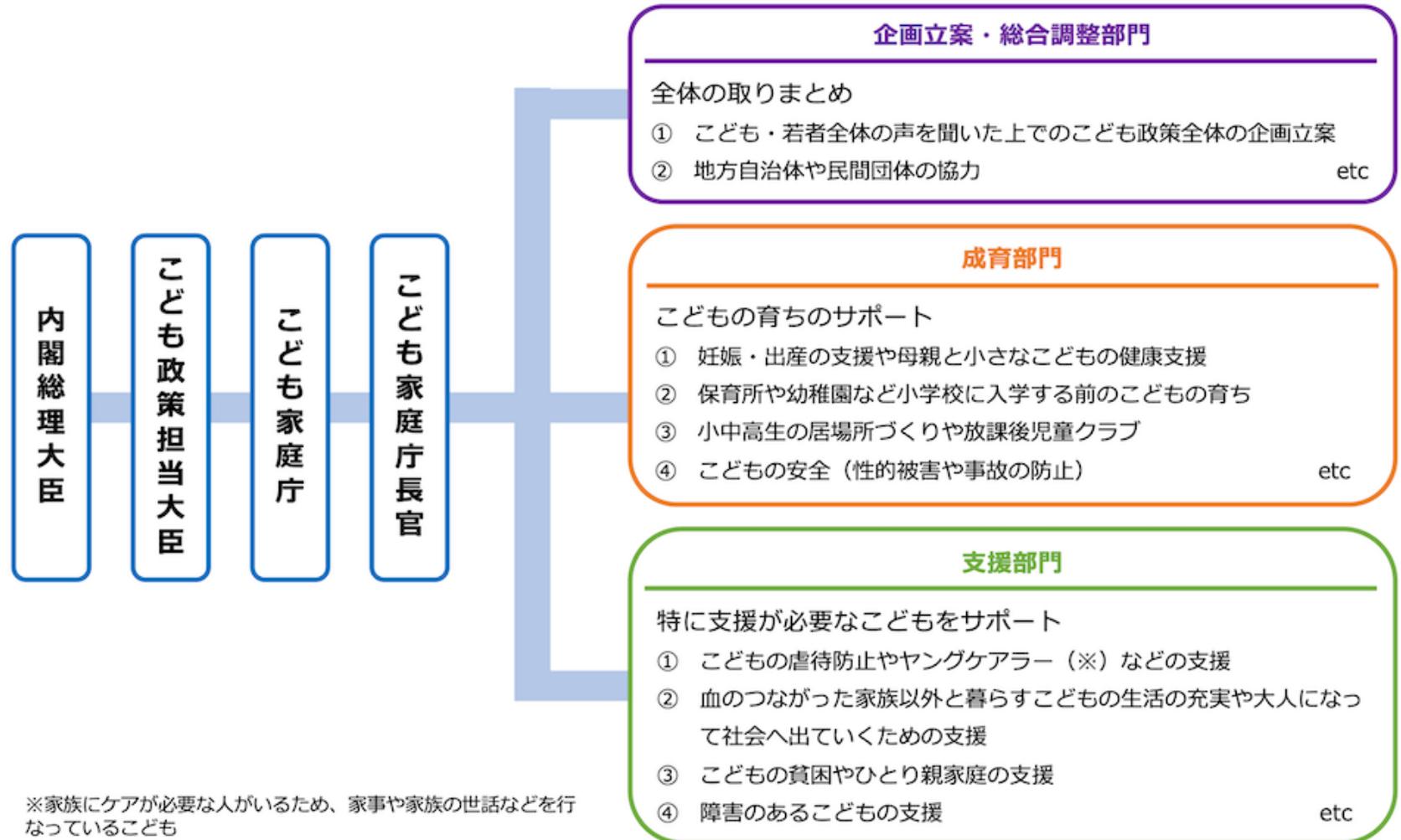
- 1 今ある場所を子どもにとって  
居心地のいい場所になるよう  
工夫する
- 2 「支援」ではなく  
「協力」を呼び掛けたり  
一緒に活動する機会をつくる
- 3 1対1の関係は避け  
複数人でアプローチする

# 2 こどもの意見表明や代弁ができる仕組み

<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2023/88168/childcare>より引用

こども家庭庁の  
目指すもの、必要性

こども政策をさらに強力に進めていくため、常にこどもの視点に立ち、こどもの最善の利益を第一に考え、こどもまんなか社会の実現に向けて専一に取り組む



# 子どもアドボカシー

子どもが意見や考えを表明できるようにサポートすること。

アドボカシー（advocacy）は、

ラテン語の「voco（声を上げる）」に由来。

子どもアドボカシーを実践する人を「アドボケイト」という。

\*アドボケイトの特徴の一つは

「組織から完全に独立していること」

（子どもが意見を表明する権利を支えるため）

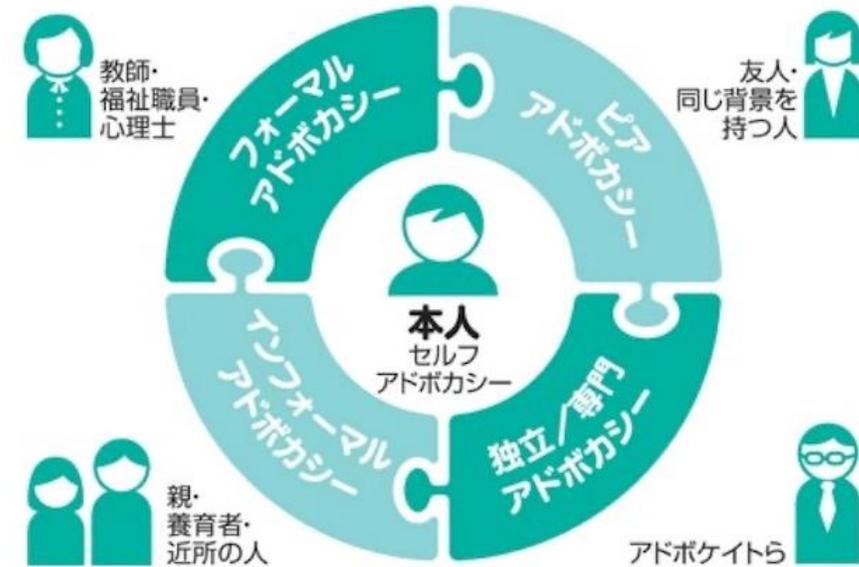
児童福祉法の改正により、

2024年から「児童の意見聴取等の仕組みの整備」が実施。

## \*子どもの意見を尊重するためにできること\*

- 1.子どもが声を上げやすい環境をつくる
- 2.普段から自分の考えを認識し表出することを認める
- 3.子どもに意見を言わせることを強要しない
- 4.子どもの意見を否定したり、ないがしろにしたりしない

### アドボカシーはジグソーパズル



それぞれの立場が補完し合い子どもの声を聴くことが大切

# \* 私たちに求められているもの

- ①特別視しない（かわいそう、~~だから、ではなく）  
そもそも、色々な背景のこども・家族・家庭が存在する
- ②耳を傾ける。気持ちを尊重する  
（だけどね~~、でも~~を多用しない）
- ③気軽に話せる場の確保  
（参加するだけでも大丈夫）
- ④傾聴することのトレーニング      \*こどもの意見表明や代弁ができる仕組み
- ⑤関係機関の実効的な連携（障害福祉・高齢福祉・子ども福祉）  
（学校（校種間連携）と福祉）